

令和5年度 教育目標について

1 名古屋市学校教育の努力目標

「ともに学び 自分らしく生きる」

<令和5年度重点事項>

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進

- ICTを最大限活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 子どもが互に関わり合い、支え合い、認め合うことを基盤とした学級づくり
- 実生活に生きてはたらき、各教科等の基本となることばの力の育成

自他のよさに気づき、自分らしく生きることのできる子どもの育成

- 自他の命を大切に、自他の存在を尊重する態度を育てる教育の推進
- 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけるためのキャリア教育の充実
- 「なごや子ども応援委員会」との協働や、関係機関と連携した支援体制の充実
- 生涯を通じてすすんで運動に親しむための指導の充実

2 本校の教育目標

個性豊かで、思いやりと広い心をもつ児童の育成

<校 訓>

かしこく

やさしく

たくましく

<宝南の子>

自ら考える子

思いやりのある子

最後まで頑張る子

3 学校教育の努力点とその推進計画

(1) 研究主題

ともに学び、ともに生きる子どもの育成

(2) 主題設定の理由

本校の児童は、人の愛の温もりや愛の素晴らしさを味わったり、仲間と協力しながら目標に向かって最後までやり遂げたりする経験が少ないことや家庭環境などが原因で、自己肯定感や自己有用感が低かったり他人を傷付けるような言動が目立ったりする児童が多い。また、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別の支援を要する児童が40名（約12%）、外国籍の児童が50名（約15%）おり、画一的な授業では、学びに対する意欲や自己肯定感や自己有用感を高めることは困難である。

そこで、仲間との活動を通して、仲間との絆や愛の温もりなどを学び、自他ともに大切な存在であると認めることができる人権感覚を育むために、昨年度に引き続き「ともに学び、ともに生きる子どもの育成」という研究主題で、人権教育に取り組む。

(3) 研究推進について

目指す子どもの姿に迫るために、以下の2つの重点項目を意識しながら研究を進める。

協働することのよさを味わわせる

以下の①、②を手立てとして、協働することのよさを味わわせる。

① コミュニケーション力向上

考えや意見を共有したり、教え合ったりできる場面を多く設定する。その際に、タブレットも有効活用できるとよい。

② スピーチ力向上

自分の意見をスピーチする場面を多く設定する。その際に、聞き手のマナー（姿勢、うなづき、拍手など）の大切さを習得させるとよい。

人の温もりや愛の素晴らしさを味わわせる

以下の①、②を手立てとして、人の温もりや愛の素晴らしさを味わわせる。

① 愛あふれる学級づくり

自他のよさをほめ合ったり、よりよい学級にするための意見を出し合ったりするなど、子どもが互に関わり合い、支え合い、認め合うことができる場面を多く設定する。

② 人権感覚を育む活動

自他ともに大切な存在であると認めることができる人権感覚を育む。

- ・ ふれあいタイム、なかよしまつり
- ・ モザイクタイルアート製作
- ・ 高齢者や障がい者とのふれあい活動

- ① 4月7日（金）の「努力点推進委員会」にて、低・中・高学年の部会に分かれて、目標を設定する。
- ② 授業実践の研究教科は定めず、上記の重点項目をもとに、1人1実践行う。
各学年、前期1実践、後期1実践とする。4月中に誰がどの時期に実践するか決める。
- ③ 授業実践の事前・事後検討会を、低（けやき・あさひ）・中・高学年の部会に分かれて開催し、指導案（略案）の検討や実践後の反省を行う。
- ④ 授業を参観する際には、参観のみとし、児童に声を掛けたり手を出しすぎたりしないようにする。また、抽出児童を決めておく。
- ⑤ 中間報告では、前期の学年の実践の内容や進捗状況について紙面にて報告する。
- ⑥ 最終報告では、1年間の研究の内容・成果と課題を紙面にて報告する。また、その内容は学年便り（3月号）にも掲載する。今年度の手だての有効性や成果・課題については、「最終報告会」にて討議を行い、共有する。
- ⑦ 児童アンケートを4月、9月、2月の計3回実施し、児童の変容を把握する。